

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

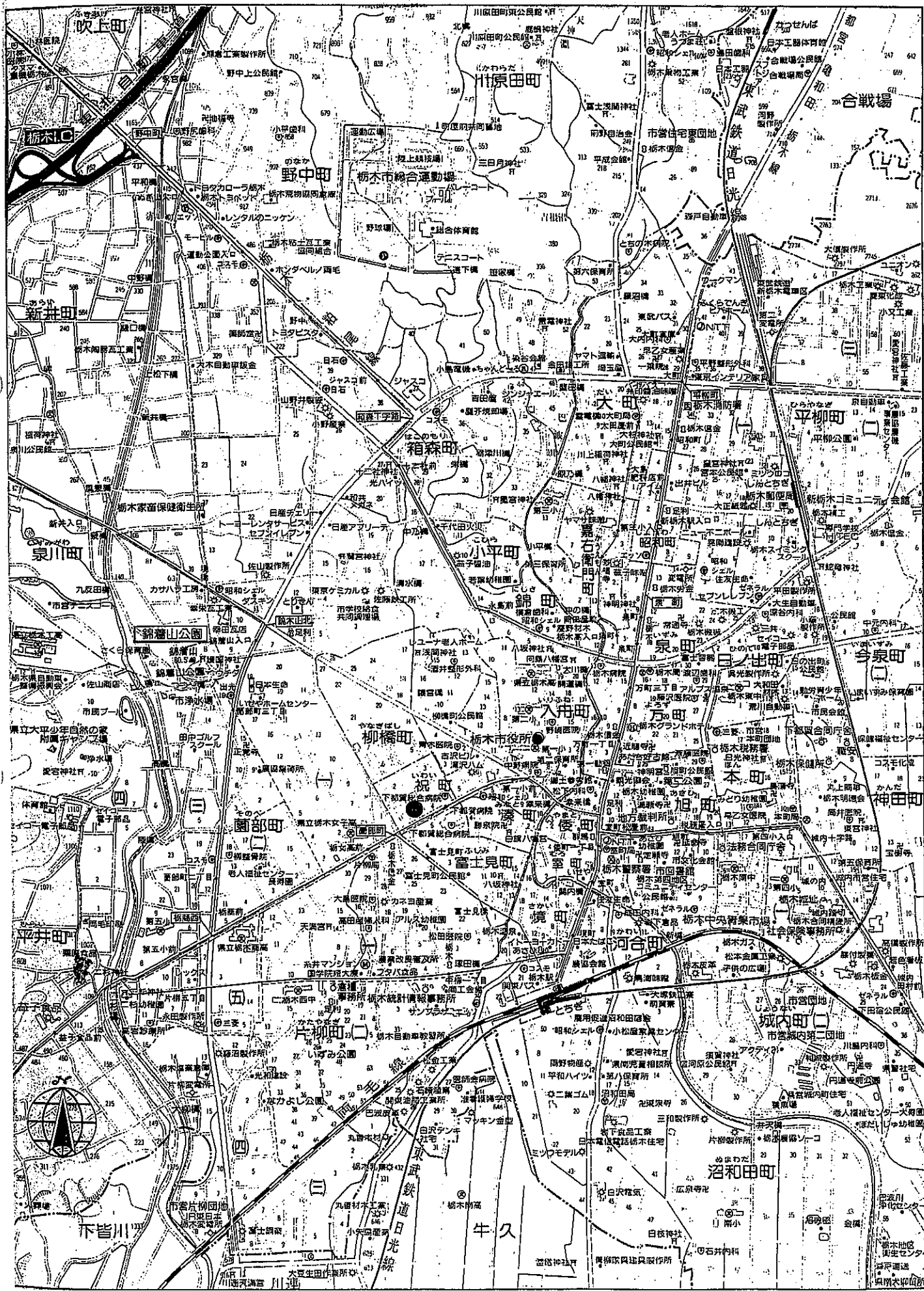
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

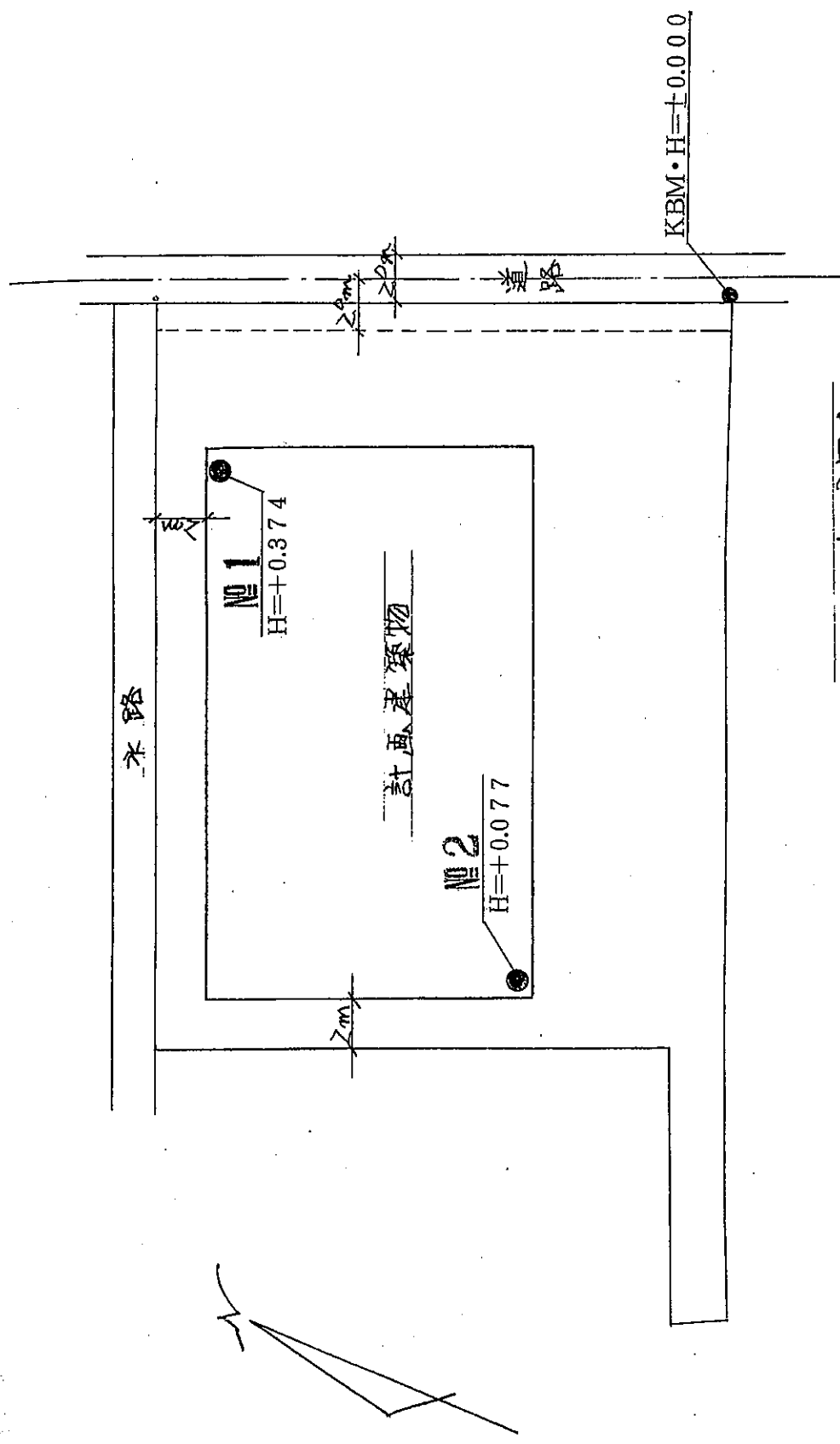
したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

案内図 建築一4

●.....調査地





$N=1:250$

配置計畫圖

土質柱状図

報告用紙

県南高等看護専門学校

調査名・調査地点 臨床教室新築工事に伴う地質調査

標高 +0.374 m

調査年月日 8年6月5日～ 年6月10日

ボーリング孔: No. 1

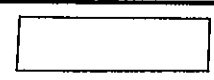
孔内水位 GL-3.90 m

調査担当者

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録				標準貫入試験					試料採取										
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数 貫入量 cm	10cmごとの打撃回数			N 値					試料番号	採取方法				
											0	10	20	30	40	50	60						
1	0.43	0.80	0.80	X	埋土	暗黄褐	コンクリート片・穀・φ3~200%程度の土混入。粘性土主体。	1.15	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0					
2	1.63	2.00	1.20	X	表土	暗茶灰	小石・浮石混入。下部砂分多い。有機質ローム主体。	1.48	33	11	1	12	0	0	0	0	0	0					
3				(土質記号欄に土質記号が記載されている)			最大径φ150%前後φ5~50%程度の円・角レキ主体。マトリクスは、GL-3.50付近まで砂分主体。次深少量の粘性帯あり。所々色調の変化(褐色)GL-3.90m割含水多い。下部φ150~200%程度の玉石多い。自立性不良。	2.15	16				0	0	0	0	0						
4								2.45	30	3	4	9											
5								3.15	32														
6								3.45	30	7	12	13											
7								4.15	20														
8								4.45	30	6	6	8											
9								5.15	28														
10								5.45	30	9	10	9											
11								6.15	50														
12								6.40	25	17	19	5											
13								7.15	30														
14								7.45	30	13	8	9											
15	7.43	7.80	5.80						砂	淡黄灰	自立性不良。	8.15	50										
16								8.40	25	17	17	5											
17								9.15	43														
18				9.45	30	14	14	15															
19				10.15	36																		
20				10.45	30	12	11	13															
21				11.15	41																		
22				11.45	30	14	14	13															
23				12.15	50																		
24				12.37	22	17	24	2															
25				13.15	34																		
26				13.45	30	9	10	15															
27				14.15	35																		
28				14.45	30	10	14	11															
29				15.15	50																		
30	15.00	15.37	7.57		砂	黄茶灰	粘土混り	15.37	22	16	23	2											

備考:

- 試料採取方法の記号
- シンウォールサンプラー
 - 貫入試験用サンプラー
 - ◎ デニソン型サンプラー
 - ⊕ フォイルサンプラー
 - × その他



土質柱状図

報告用紙

県南高等看護専門学校

調査名・調査地点 臨床教室新築工事に伴う地質調査 標

高 + 0.077 m

調査年月日 8年6月10日～ 年6月14日

ボーリング孔: № 2

孔内水位 GL - 3.60 m

調査担当者

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録			標準貫入試験					試料採取										
				土質記号	土質名	色調	深さ m	打撃回数 貫入量 cm	10cmごとの打撃回数			N 値					試料番号	採取方法				
									10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40	50	60				
1	0.83	0.90	0.90	×	埋土	暗黄褐	φ30~250%のレキ・ 殻混入・粘性土主体	1.15	1	1												
2	1.88	1.95	1.05	×	表土	暗黄褐	殻・レキ混入・ シルト系の粘性土・ 若干ローム性帯び 層理性不順。	1.47	42	42												
3							最大径φ150%前後 φ5~50%程度の 円・角レキ主体。 マトリックスは、GL-270 付近まで砂分主体。 次深粘土分及び 砂分の多いところから れ不規則。 色を褐色帯びる。 下部漏水状を呈し、 自主性不良	2.15	9													
4								3.15	7													
5								3.45	30	3	3	3										
6								4.15	13													
7	6.83	6.90	4.95			砂	淡黄灰		4.45	30	5	3	5									
8								5.15	17													
9								5.45	30	5	6	6										
10								6.15	22													
11								6.45	30	7	8	7										
12								7.15	29													
13								7.45	30	9	9	11										
14								8.15	24													
15	15.18	15.25	8.35			粘土混 砂	黄茶灰	最大径φ150%前後 φ5~40%程度の 角・亜角レキ主体。 浮石混入。 上層褐色混じる。 マトリックスは、砂分及び 粘性土が主体で 部分的に粘性土、 砂分を不規則に含有。 下部φ100~150%の 玉石多い。 孔内自主性良好。	8.45	30	8	9	7									
16								9.15	50													
17								9.40	25	18	23	5										
18							10.15	44														
19							10.45	30	15	15	14											
20							11.15	35														
21							11.45	30	12	11	12											
22							12.15	26														
23							12.45	30	9	8	9											
24							13.15	43														
25							13.45	30	14	14	15											
26							14.15	50														
27							14.25	10														
28							14.45	50														
29							15.15	50														
30							15.25	10														

備考:

試料採取方法の記号

- デニソン型サンプラー
- シンウォールサンプラー
- 貫入試験用サンプラー
- ⊕ フォイルサンプラー
- ⊕
- × その他

